

第一回KYOUKOU（強度行動障がい勉強会）報告

- 1 日時 平成 28 年 5 月 30 日(月) 18:30~19:30 &第二部おそくまで…(^-^;
- 2 場所 合同会社サクスシェア事務所（東区馬出）
- 3 参加者 8名
- 4 内容

①自己紹介

②「強度行動障がい者支援に携わって思うこと」についてフリートーク

- ・ 支援者の思いと利用者の思いにずれがある場合にどう対処すればよいか難しい（介護分野や障がい種別によってニーズも違うのでミスマッチの起こりやすさがそれぞれに違いがある）
- ・ 基本はひと対ひと、相手との関係の中で、思いも違って出てくる場合がほとんどその関係性の中で支援をしていく難しさがある
- ・ かーむで大切にしていきたいのは「専門性を生活の中でどう生かすか」「障害種別によって違う自立感にしっかり向き合う」こと
- ・ 支援者は、障がい者その人のことを代弁できないといけない！
- ・ (専門性とはなにかについて活発な議論を経た結果)「支援者のスキルとしての専門性（本に書いてあるような…）」は当然のこととして、加えて「障がい者一人ひとりの特性に合せて支援を組み立てることができる専門性」の2つの視点があること（これは今回の学びで整理された重要な視点だと考えます！）

③中本由美子さんのお話し「強度行動障がいとかかわってきて」

強度行動障がいのお子さんを育ててこられた母親としての面と障がい福祉サービス事業所で現場支援をされている面の両面をお持ちの経験から、今後、私たち支援者が、あるいは社会全体が考えなければならぬ問題提起をたくさんいただきました。

- ・ 強いこだわり、大きなパニックを示したとき、「支援者はみれないと背を向け」「専門家は正論を吐くだけ」に振り回されてきたと語っておられました。強度行動障がい者に特化して受け入れをしているかーむとして大きな宿題を預かった気になりました。
- ・ 最後のほうにおっしゃった言葉がすごく重みがあり、ずっしりと心に残りました。「どうかかわればよいのかは、本人が教えてくれる」難しいお子さんとずっと体でぶつかってこられた方だからこそ言えることだと思いました。どのかかわりがいいなんて正解はない、相手が、環境が、本人の心理状態が変われば、当然求めているものも変わる、だから最終的にはどうかかわるかは本人に「教えてもらう」しかないということだと気づかされました。

④懇親の夕食会 調子に乗りすぎて通報を受けたおまわりさんに注意されました～(^-^;

※参加のみなさん、とてもよい時間を過ごすことができたことを心より感謝いたします！
次回は、6月29日(水)の予定です！